



2022年5月11日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 コ ロ ワ イ ド
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 野 尻 公 平
(コード番号 7616 東証プライム市場)
問 合 せ 先 取 締 役 瀬 尾 秀 和
(T E L 0 4 5 - 2 7 4 - 5 9 7 0)

その他の営業費用（減損損失）、金融収益（為替差益）、及び金融費用（株式評価損）の計上並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2022年3月期連結会計年度末において、その他の営業費用（減損損失）、金融収益（為替差益）、及び金融費用（株式評価損）を、下記のとおり計上する見込みとなりましたのでお知らせ致します。また、2021年5月13日に公表致しました通期連結業績予想を、下記の通り修正することと致しましたので、併せてお知らせ致します。

記

1. その他の営業費用（減損損失）の計上

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき当連結会計年度末におきまして、店舗固定資産に対し新たに2,589百万円の減損損失を計上することとし、通期における減損損失の累計計上額は2,753百万円となる見込みです。新型コロナウイルス感染症への対策として全国に拡大した営業制約の長期化による店舗損益への影響に加え、ウイズ・コロナを見据えた店舗戦略での閉店等もあり、店舗環境を慎重に見極め将来価値の検討を行った結果、計上することによるものです。

2. 金融収益（為替差益）の計上

為替相場の変動に伴い、当第4四半期連結会計期間におきまして、為替差益を金融収益として547百万円計上することにより、当連結累計期間における為替差益の計上額は701百万円となる見込みです。これは主に、当社グループは海外子会社に対して、国内グループ会社よりインターカンパニーローンを行っておりますが、国内グループ会社が保有する海外グループ会社に対する外貨建て貸付金を、期末為替レートで評価替えしたことによるものです。

3. 金融費用（株式評価損）の計上

当第3四半期連結累計期間におきまして、株式評価損を金融費用として762百万円計上しておりましたが、株式市場の変動に伴い、当第4四半期連結会計期間におきまして、更に43百万円の評価損を計上致します。この結果、当連結累計期間における株式評価損は805百万円となる見込みです。尚、評価対象株式は政策保有株式ではなく、過去にM&Aで取得した当社連結子会社が連結前から保有していた株式で、評価対象株式の発行会社は非公開会社であるものの、当該会社が上場会社を子会社・関係会社として保有することから、当社決算において評価対象株式となっているものであります。

4. 業績予想の修正

(1) 2022年3月期通期連結業績予想数値の修正 (2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上収益	事業利益	EBITDA	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想 (A)	221,665	7,656	15,131	2,413	536	0.24
今回修正予想 (B)	175,627	6,133	14,416	3,068	1,437	11.31
増減額 (B-A)	△46,038	△1,523	△715	655	901	
増減率 (%)	△20.8	△19.9	△4.7	27.1	168.1	
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	168,181	△8,331	△98	△11,193	△10,085	△141.30

(2) 修正の理由

2021年5月13日に公表致しました2022年3月期の通期連結業績予想につきましては、ワクチン接種の進展等に伴い消費マインドが改善され、個人消費が段階的に回復に向かうことを想定しておりました。しかしながら緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置が断続的に続き、11月と12月以外は店舗の休業や営業時間の短縮、アルコール類提供の休止など年間を通じ制約を受けたことにより、売上収益につきましては、予想を下回る見込みとなりました。コスト面では固定費の削減や損益分岐点の引き下げを継続的に行ってきたことに加え、政府の「協力金」等の支援による下支えもあり、当期利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益につきましては、予想を上回る見込みです。

(注) 上記の業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は、様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上